



ちちのおにぎり○ むすめのおにぎり

服部 正志

木版画、シナ合板、和紙

私が小学生の時、図画工作の時間に畳一畳ほどの大きな版木を使って木版画をした経験がある。奈良の大仏さまを彫刻刀で彫って、大きな和紙に刷ったことが今でも鮮明な記憶として残っている。

クラスメイトが2～3の課題に取りかかる間、私はずっと版木を彫り続けていた。

そのような経験ができたからであろうか、版画表現となると、刷り上げた版画作品よりも作者が長い時間触れに触れた版に魅力を感じていなかった。

そのようなオモイを長く持ち続けて来たところ、娘の自由な表現に感化され、版木を立体物にし、その状態で彫刻したものを刷り上げた版画作品と同時に展示する試みをはじめることとなった。

平面と立体との相互関係は、鑑賞者に制作過程を連想させ、表現世界に没入する一つの要素として非常に魅力的であると感じている。

本作は、娘からいただいた柔軟な思考に対する感謝の気持ちを表現するため、私と娘が共通して大好きなおにぎりをモチーフに木版画で表現した作品である。